

## 環境に配慮した取り組み

### 名古屋市内的での地域との協働による郷土種樹木の保全活動について

- NEXCO中日本の経営施策である「地域連携や環境・持続可能社会への貢献の推進」の取り組みの一環として「生態系保全」「地域性苗木育成」の技術を高速道路以外でも活かす活動を、2009年5月に協議会を設立して開始しました。
- 2009年6月に、千種区のなごや東山の森で、地域の方々や協議会のメンバー約200名が参加して、挿し木を行うための枝の採取を行いました。
- 2009年11月に、守山区の八竜緑地となごや東山の森で、メンバーなど約40名が参加して、種の採取を行いました。  
三重大学の名誉教授などによる、郷土種子や生物多様性に関する勉強会(ワークショップ)もあわせて実施しました。
- 採取した種から発芽も確認され、苗木の育成を行っています。
- 2010年3月13日、14日には、植栽予定地である中川区の戸田川緑地となごや東山の森において、メンバーなど約80名が参加して、動植物などの現地状況調査を行いました。
- 調査結果から、野生動物(イタチ、アカネズミ)の生息が確認され、名古屋市における哺乳類の分布状況と自然状況が分かりました。また、植栽予定地が粘土質の土壌であり、植栽のための土壌整備(土壌改良)が必要なことも分かりました。
- 今回の調査結果を参考に植栽計画を作成して、2010年10月に名古屋市で開催されるCOP10のパートナーシップ事業などで、戸田川緑地となごや東山の森において、地域性苗木を植栽する計画です。

(計画全体で約1000本の地域性苗木を植えます)



土壌調査状況



トラップで捕獲された野生動物  
(アカネズミ)の観察状況

- 当社は今後も引き続き、自然環境に配慮した道路(エコロード)づくりを進めながら、COP10を応援いたします。